

**事業所名** おおさ苑グループホーム  
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成20年12月10日

**評価機関名** ㈱東京リーガルマインド  
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

**評価調査員**  
A:現職 社会福祉法人生活指導員、介護事業所管理者  
資格・経験 身体障害者職業生活指導員、社会福祉主事、ホームヘルパー2級、介護支援専門員、難病患者等ホームヘルパー  
B:現職 自営業  
資格・経験 介護支援専門員、介護福祉士

**自主評価結果を見る** (事業者の自主評価結果にリンクします)

**評価項目の内容を見る** (評価項目にリンクします)

**事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)**  
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<p>在宅と変わらぬ生活の継続をめざし、これまでの生活を断ち切る事無く、本人のニーズに合ったその人らしい暮らしを支援している。</p> <p>代表者は、ホームの活性化とケアサービス向上に繋がるように、職員からの意見や発言を積極的に促している。また、月1回は、職員の行動原理を唱和してケアサービスに対する共通認識を深め、現場で実践している。</p> <p>独自にパソコンソフトを開発して作業の簡素化を図り、入居者のタイムリーな情報を全職員で共有することで、入居者一人ひとりの現状に即したケアサービスの提供をめざしている。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>ホーム生活がマンネリ化せず、入居者の好きな事やしたい事が自主的に行えるよう、入居者の活動を積極的に支援している。自由な時間の中で生活の活性化を図り、張り合いのある暮らしが送れるように心がけている。</p> <p>管理者は、職員との関わりを大切にしており、職員同士の良好な関係を維持し、職員の気持の安定や余裕が入居者へのゆとりある介護へと反映されるように努めている。</p> <p>家族アンケートの収集結果や外部評価の内容を積極的に開示している。ボランティアも積極的に受け入れ、様々な情報をホーム運営に活かし、入居者の充足した生活の場の提供に努めている。また、入居者が気持ち良く過ごせるよう清潔な住環境も整えている。</p>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のベースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

### 外部評価の結果

**講評**

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

東北中山間地の静かな環境の中にホームはあり、眼前にはのどかな田園風景が広がっている。緑豊かな山々など、恵まれた環境の中で入居者は生活している。

オンラインシステムを活用して入居者の情報を管理しており、入居者それぞれの様子を即座に把握でき、現状に即した支援をいち早く提供できる。

ホーム運営に経営コンサルタントを導入し、代表者から現場の職員までの風通しの良い関係を築いている。毎年、職員一人ひとりが研修目標を立て、介護資質の向上に努めている。また、職員行動原理6ヶ条を掲げ、顧客(入居者)の満足度をより充実させるため日々取り組んでいる。

地域交流センターが法人の敷地内にあり、地域へ施設を積極的に開放している。また、年4～5回、「おおさ苑だより」を新聞の折り込み広告として配り、地域啓発にも努めている。防災訓練も地域の方と協力して行っている。

「和顔愛語」の実践をモットーとし、「人間愛と奉仕の精神で一人ひとりが生きいきと」をテーマに介護に取り組んでいる。また、苦情相談委員会を設け、「苦情・事故対応マニュアル」を作り、苦情等があった場合も、ホームの運営改善の一助として積極的に取り入れる姿勢がある。

複合施設としての利便性を生かし、互いに補完し合いながら、入居者の安全・安心な生活を守っている。

**特に改善の余地が有るとと思われる点(記述)**

改善の余地があると思われる点はない。

法人全体が地域に根ざした福祉施設として地域に溶け込んでいる。今後も、優れた運営ノウハウを活かして地域への啓発を進め、ますます地域と密着したグループホームとして発展されることを期待する。

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物支援	○	
23	認知症の人の変容に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>入居者それぞれの経歴・能力を把握し、ホーム生活の中で本人の特性・意向を生かすように努めている。</p> <p>入居者に対する職員の姿勢が確立しており、常に尊敬の念を持って接している。呼び掛けにも敬称を使い、個人のプライバシーと尊敬に配慮した対応を行っている。</p> <p>不要になった書類は、シュレッダーにかけて処分し、情報が外に漏れることがないように留意している。オンラインシステムでの情報管理にも細心の注意を払っている。</p> <p>玄関には、グループホームの個人情報保護に関する基本方針を掲げ、日頃より意識の強化を図っている。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<p>職員の知識習得を積極的に支援している。資格取得に向けて勤務体制も柔軟に対応し、資格取得に対しての報奨制度もあり、職員の知識習得に対する意識を喚起させ、介護資質の向上を図っている。</p> <p>ビジネスコミュニケーション等、仕事上で必要なコミュニケーションスキルを職員全員が学び、一つのチームとしてホーム全体の介護水準がアップするように取り組んでいる。</p> <p>年2回、自主評価を行い、自らのケアに対する姿勢を見直す良い機会としている。</p> <p>「苦情及び事故対応マニュアル」を設置し、問題等が生じた際に迅速な対応が取れるように備えている。また、問題が発生した場合も、入居者・家族との信頼関係を深め、介護レベルの向上に繋がる良い機会として捉えている。</p> <p>些細な事故及びヒヤリ・ハットに至るまで記録に残し、検討して再発や事故防止に向けて取り組んでいる。また、事故防止・夜間医療・感染症対策としてケアマニュアルを設け、面会の方にも玄関でアルコールの手指消毒をしてもらおう等、入居者の安全・安心な生活を守っている。</p>		